令和6年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和6年9月24日（火）

地区 植苗地区

会場 植苗ファミリーセンター

<意見交換>

◆市民 まちかどミーティングに出席させていただきまして、ありがとうございます。

中央町内会の・・・と申しますけれども、緑星の里の通りから、陽明園に入るあそこの道路のところ、・・・さんのところからなんだけれども、左に入るところ、あそこ、ちょっと入って行ってカーブになっているんですけれども、あそこに雨が降ると水溜りがすごくできるんですよ。

それで、道路維持課のほうの人にも何回か来てもらっているんですけれども、対策が今のところ分からないということで、見つからないということで、僕はそういうふうに話を聞いているんですけれども、市のほうでは、どのようにするのかちょっとお聞きしたいんですけれども、これから水がたまると、あそこ、冬になって氷が張ったりなんかすると、ちょうどカーブになっているんですけれども、余計に危ないので、なるべく早期解決を望んでおります。

以上です。

○司会 はい、ありがとうございます。ただいま陽明園に入る道路のところにカーブがあって、そこが雨が降ると水溜りがすごくひどいということでしたが、市のほうから回答をお願いいたします。

◎維持課長 道路の管理担当をしています、維持課の成田と申します。いつもお世話になっております。

今の箇所、ちょっとなかなか食い違いがあったらまずいと思いますので、地図を持ってきますので、後ほど詳しく状況、場所を確認させていただきまして、対策等についてちょっと検討させていただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

○司会 それでは、ただいまの件については、後ほど場所の確認をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

前から2列目、今、マイクをお持ちいたします。

◆市民 中央町内会の・・・といいます。よろしく願いいたします。

単純な質問なんですけれども、苫小牧市、先ほど82の町内会があるということでもありましたけれども、どこに、何番地の何ぼという苫小牧市での地域というのはもう残り少なくなっていると思うんですけれども、この植苗もその部類に入っていて、隣に立派なものが出てくるというときに、苫小牧市字というのがあって、果たしてそこに勤めてくれる人たちも、「字のところに住むのかよ。」というような声も出ないとも限らないと思いますけれども、苫小牧市として、住居表示というんですか、今行っている何丁目何番というものから、今植苗のように何番地の何ぼというものに、植苗地区に変わる可能性があるのか、ないのか、その辺を伺いたしたいと思います。よろしく申し上げます。

○司会 ありがとうございます。ただいま植苗地区の住居表示についてのご質問がありました。

◎**市民生活部長** 皆様、御無沙汰しております。市民生活部の柴田でございます。ただいまの住居表示の関係なんですけど、分かりません。

◆**市民** 担当ではない。

◎**市民生活部長** 今のところはそういうお話は聞いたことないので、どういう基準でやっているかとか、ちょっと調べさせてもらって、ご連絡させてください。

◆**市民** 今のところは考えてもいないと。

◎**市民生活部長** そこも分かりません。やはり人口がある程度の規模になって、住居表示が必要な規模になった際ということになりますので、植苗はちょっとまだないと思いますけど、どういう基準なのかはちょっと確認をさせてください。

例えば、今西側のほうで美原町とかできましたけど、ああいうところが民間の事業者で区画整理事業をやって道路を入れて、きちんと整理をされたところにはまちの名前がついて番地で分かれていっていますけど、植苗がまだそこまで大きな区画整理、これからラピダスの動きだとも出てきますのでどうなるか分かりませんが、そのような形になるのかなと思いますけど、調べてご連絡いたします。

○**司会** それでは、ただいまの件については一度持ち帰って、調べてから回答させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。先ほど手を挙げた方、はい、今。

◆**市民** 植苗の・・・と申します。これ、国道36号線の話が出ておりますが、実は観光行政として道の駅の在り方、これについてちょっとご相談というか、質問させていただきます。

今、利用している中で、非常に苫小牧方面から道の駅に入る道路が凹凸というか、陥没しているような状況で、非常に出入りがしづらいです。

それと、苫小牧方面から道の駅に入場された方は分かると思うんですが、そのときに、時間差があまりないものですから、非常に札幌方面に抜けていく車と、苫小牧から道の駅に入ってくる車の交差の部分で、本当に瞬時に事故が起きるような可能性が非常に高いということで、その辺の信号待ちの時間差を要望したいということと、それと、その凹凸を直していただきたい。

今、特に道の駅というのは、役割として、あくまでも避難所として、地域避難所として活用されるべきものが、やはり中の整備がきちんとされていないということになると、やはり我々観光名所の一つとしても、非常にやっぱり残念な結果であるんじゃないと思いますので、その辺のお話を聞かせていただければと思います。

以上です。

○**司会** ありがとうございます。ただいま道の駅の周辺の道路の陥没の件と、それと信号待ちの時間差の関係で交通事故が結構多いというようなご質問をいただきましたので、市のほうで回答できますでしょうか。それでは、回答のほうをお願いいたします。

◎**維持課長** 失礼いたします。維持課、成田と申します。国道36号線の道路の陥没ということでお話がございましたので、私のほうからちょっとお答えさせていただきます。

国道36号線、先ほどもちょっと出てきましたけれども、北海道開発局、国のほうで管理されて

いる道路でして、道路については穴があったりだとかという場合は、維持管理上、穴埋めの業務を毎年出して行っていただいていますので、いま一度、国のほうにも維持管理の徹底ということで、再度私のほうから、国のほうに、道の駅の周辺は交通量も交差もありますので、特に入念にやってくださいということで、要請のほうをしまいにしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

◎**市民生活課長補佐** 交通安全を担当している市民生活課の本田といいます。今のお話の中で、国道からの道の駅に入るときの信号の部分の時間が短いという部分については、ちょっとうちのほうでも、もう一度、警察のほうと場所を確認して、警察のほうともちょっと時間の部分について延ばすことができるかとか、ちょっと改めて確認させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○**司会** それでは、前の方。

◆**市民** 植苗北町内会の・・・といいます。

今の件につきまして、道の駅の交差点のわだちですね、穴じゃなくてわだち。それで、開発局の回答といたしまして、順番がありますので順番待ちとなっておりますという回答を前回いただいているんですけども、その後、いつぐらいまでに完成しますよという回答は得ていないんですけど、その辺、市のほうで確認していただければと思いますけど。

○**司会** 先ほどの質問に関連して、道の駅の交差点のところ、わだちというところで、開発局のほうには順番待ちだよということなんですが、時期がちょっと未定だということで、その辺のところでも市のほうから何か情報はありますか。

◎**維持課長** 維持課、成田と申します。国道の、今のその交差点、道の駅のところのわだちの処理につきまして、具体的にいつぐらいの時期になるかというのも含めまして、私のほうから国のほうに問合せをしまして、確認させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○**司会** ただいまの件については確認して、改めて回答させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは、ほかに…。はい。

◆**市民** 中央町内会の・・・と申します。今日は、まちかどミーティングをありがとうございます。

2点あるんですけど、ウトナイ湖、道の駅、サンクチュアリとか、ばつとあるんですけど、実は何かいろいろ調べると、最寄り駅が植苗駅になっているんですね。全部のネットではないんですけど、結構植苗駅で、JR植苗駅で降りて、降りたらすぐにサンクチュアリとか、道の駅があると思われて、結構僕は何回も中央町内会の辺りから、国道の辺りから観光客の方を乗せたことがあるので、ちょっとその辺は、JRの関連とか、ちょっと市とは関係ないかもしれないんですけど、できればJRと協議していただいて、駅のところには何か標識をつくっていただくとか、あそこはなかなかタクシーも呼ぶことをちょっと、沼ノ端から呼ぶとやっぱり10分以上かかりますので、ちょっとそういう対策をしていただきたいなというのがちょっと何点かあります。

それと、今日もちょっと実は、朝、徘徊老人の方を見かけて、苫小牧警察署に通報して、先ほど何人かで対応はしたんですけど、今回、能登の洪水ですか、のこともあって、改めて防災無線のことで、今日、今朝の話の中で、植苗中央町内会、ちょっとこの中央町内会のことだけなので、

南とか北とか遠浅とか、美沢は分からないんですけど、植苗町内会、学校、ファミリーセンター側のほうは結構防災無線が聞こえるんですけど、私たちが住んでいる若森通りのほうには防災無線が聞こえにくいんですよ。

クマとかが出たときは巡回車で回っていただくので聞こえるんですけど、防災無線が、もうこっちはこっちの今、ファミリーセンター側は結構こっちのほうに多分マイクがあるので聞こえるんですけど、ちょっと向こう側の住宅地・・・団地のほうは聞こえにくいので、検証していただいて、できればスピーカーを追加設置していただければ、いつなるとき、今後、水害だとか、地震だとか、あるかも分からないので、ぜひお願いできればと思います。よろしくお願いします。

○司会 ありがとうございます。ただいま2点いただきまして、1点目が植苗駅で降りたらすぐにウトナイ湖とか道の駅が近いというふうになんか勘違いされてしまうというところの対策と、2点目が防災無線が少し聞こえづらい場所があるということかと思っておりますので、市のほうから回答をお願いいたします。

◎交通政策主幹 乗り物を担当している村上と申します。よろしくお願いいたします。

植苗駅は、この植苗地区の重要ないわゆる交通の拠点となっているということは把握してございます。それで、やはり植苗駅を降りてすぐウトナイ湖に近いのかなとか、道の駅に近いというふうな、そういう誤解を招きやすいというお話がありました。

植苗駅の建物自体はもちろんJRなんですけど、そこをどういうふうに掲示するかを含めて、やはり分かりやすいということが公共交通としてすごく重要な機能だというふうに思っておりますので、ちょっと協議させていただいて、対応させていただければと思っております。

以上です。

◎危機管理室主幹 防災を担当しております、危機管理室の川崎と申します。よろしくお願いいたします。

この防災無線に関しまして、聞こえの問題というのは本当にいろんなところからお声を、すみません、いただいておりますので、この防災無線もいろいろ各地で、この聞こえの問題をいただいたときに、無線の向きですとか、時差放送をしますとか、そういうことをやらせていただいているんですけども、今回のご指摘いただいたところ、まず検証のほうはさせていただきたいなというふうに思います。

なので、ちょっと後で場所のほうを詳しく教えていただきたいというふうに思います。

それから、追加設置ということなんですけれども、すみません、この無線は非常にやっぱり高価なものでして、なかなか追加で設置するということは、今の段階ではちょっと難しいかなというふうに考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○司会 それでは、防災無線の場所については後ほど確認させていただきたいと思っております。それでは、ほかにもなにかいらっしゃるでしょうか。今、マイクをお持ちいたします。

◆市民 中央町内会の・・・と申します。このような場で、いろいろ意見交換ができること、うれしく思います。

私は、七、八年前に、植苗、この中央町内会の辺りに引っ越してきたんですけども、非常に自然が豊かですてきな場所だなと思って暮らせていただいております。

小さい子供を三人抱えている世代なんですけれども、こういう世帯の意見をこういうところで聞いていただけるなというふうに思っていて、発言させていただきます。

今、町内会のほうで運営している保育園なので、ここでちょっと言うべきなのか分からなかったんですけど、こんな意見があるなということで聞いていただければと思うんですけども、うちの娘たち、保育園のほうに通わせていただいております、ただ、開園時間が、ずっと昔からだと思うんですけど、10時から2時半が基本の時間帯で運営していただいて、すぐ徒歩でも行ける範囲なので大変ありがたいことなんですけれども、近くの世帯のほうの様子を見ている、最近ちょっと引っ越しで若い人が入ってきているような節もあるんですが、時間の関係かどうか分からないんですけども、植苗以外の保育園のほうに通われているところもあるようでして、今、植苗保育園のところは非常に園児が少ないということもありまして、ちょっと存続がどうなのかという話もあったりもするんですけども、もしこれが要望というような形になるかも分からないんですが、フルタイムの保育園というんでしょうか、もっと長い時間帯で運営していただいたりすることで、そういうふうには植苗から外に出ていってしまっているそういうお子さんを連れてきた世帯の方も、植苗保育園のほうを利用しやすくなったりとか、またはラピダスという話も出てきておりますが、これからはもしかしてその需要を、苦小牧市のほうで人口を抱えることになるとしたときに、ここの植苗というのも非常に近い場所にありますので、子育ての環境が整っていれば、若い方ももっと入ってくるかもしれないというふうには、私の視点からはそういうふうに見えるんですけども、こういった人口構成的にも若い人がやっぱりいてくれたらありがたいなと思いますし、そういう、それこそ政治的な部分かも分からないんですけども、市としては、こういった意見をどんなふうに関心されるか伺ってみたいと思って、発言させていただきました。

以上です。

○司会 ありがとうございます。ただいま、保育園の開園時間というお話でしたが。

◎副市長 どうもありがとうございます。保育園の関係ですね、通常、認可保育園といって、市では、直営は2園を今抱えています。あとは民間の法人に委託して、保育園を運営していただいている。そして、ここ、植苗と樽前については、それとは全く事情が違う特別の保育園ということで、町内会さんに担っていただいているということになっています。

それで、やはり今の時代、少子化は着実に来ているんですけども、やはり親御さんたちの働き方の関係で、保育の需要というのは、横ばいからますます増えていくことも予想されると思います。ただ、市営で公共として保育園というのはもう2園、西と東の一つずつという計画の中で、今、進んでいます。

民間さんに委託しますので、民間さんもやっぱり経営の部分で、今かなり厳しい状況にもなっています。ですから、今、何か市で植苗に認可保育園を建てるかどうかということをおっしゃいますと、今の現状では難しいというふうには思っています、今の植苗保育園を何とか継続した形で担っていただきたいなというふうには思っています。

ただ、おっしゃられたとおり、これからいろんなラピダス、それからソフトバンクのデータセンターですとか、いろんな企業が関連企業も含めて進出してくるということになったときに、植

苗に住まわれる方もいるかと思えます。

そういった形で、需要のほうがこの地域でかなりあるという観測ができれば、市としても何らかの方法、民間さんを探すですとか、そういう方法はしていくということはないですけども、現状として今すぐ公共と市の保育園を構えるですとか、民間さん認可保育園をここに設置していただくというところは難しい。今の植苗保育園を町内会の皆さんに何とか引き続き担っていただきたいというところが市として、私としての考え方ですので、今のところはということでお聞き願いたいと思います。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

◆市民 南町内会の・・・と申します。もう最後になりますけれども、何点か、いっぺんに言わせてもらいます。

いつもこの要望書が出されていて、回答のできない、今日の町内からの要望書で解決しているのは3番目だけです。つい最近、開発局が中央分離帯をきれいに刈っていただいています。

たくさんあるんですけど、この2番目をちょっと再度お願いしたいと思います。このモダ石油から千歳方面へ上がって行ってみてほしい。もう10メートル間隔に水銀灯がついています。モダ石油の坂を下がってきてからはもう苫小牧駅だよね。ここから、ウトナイ湖の道の駅の間は、カーブに、安全協議会がつけた水銀灯と千歳空港線につけたオレンジの水銀灯がついています。

その間は真っ暗ですよ。ですから、せっかくの空港のこの植苗の航路化の中で、こんな暗い、空港線もそうですけれども、36号線があまりにも暗過ぎます。鹿だけでなく、非常に危ないんです。だから、早急に何とか苫小牧市ができないのであれば、北海道、国に要望してほしいなど。たくさん、これ、ありますけども、これが第一番かなと思います。

私があと二つほど言いたいのが、まずとこバスです。非常に能登の災害もありますけれども、このコミュニティセンターに止まることができないんだそうです、このとこバスの規約で。だから、名前を変えてでも、とこタクシーでもいいですけども、停留所のないところには泊まれないというんですから、何とかこれを解消していただきたいなと思って。

最後に、これは苫小牧市が、日本がそうなんですけれども、今日のゼロごみ大作戦、大変感動しましたけれども、環境税の問題です。今年から皆さんから1,000円が取られていると思うんですが、この扱いをちょっと説明していただきたいと思います。

以上です。

○司会 ありがとうございます。ただいま、3点いただきました。1点目が事前要望の2の回答についてということ、2点目がとこバスについて停留所がないと停まれないということ、それと、最後が環境税についての取扱いということでありましたが、市のほうから回答をお願いいたします。

◎維持課長 度々すみません、維持課、成田と申します。

1点目の国道36号線が暗い、道路が暗いということに関しまして、回答書のほうにも少し書かせていただいたんですけども、これ、管理者、国の北海道開発局というところになっておりまして、こちらのほう、何とか引き続き、この地域の事情とご要望ということで、粘り強くお伝えして、少しでも改善に向かうように、引き続きちょっと要望のほうをさせていただきたいと。

市のほうで国道ということですので、なかなか手が出せないところもちょっとご理解いただきたいと思うんですけども、引き続きちょっと要望させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

◎**交通政策主幹** とこバスを担当しています村上と申します。よろしくお願いたします。

やはりとこバスは、皆様方、町中とかでいろいろ使っていただいでご利用いただいているところなんですけれども、これは一応コミュニティバス、いわゆるデマンドバスと言われるものでして、道路運送法、区域運行という特別な許可をもらって運行しているものです。これは、いわゆるコミュニティバスとタクシーとの競合を避けるためのいわゆる制度ということになっております。

よく地元の皆様方からも、例えば植苗ファミセンとかに停まれないかというご要望はいただいでいて、我々もそのたびごとに運輸さんのほうに一応お聞きはしているんですけども、いろいろこの公共交通、厳しいこの中で、いわゆるタクシーとかとの競合とかいろいろ厳しいこういう状況があるというところで、今現在、植苗ファミリーセンターに停まるというのは非常に難しいということで、運輸局のほうから聞いております。ただ、いろいろ皆様方、利便性の向上という意味では、いろんな手段というところは考えなくてはならないと思っておりますので、より利便性が高くなるように、地元の方々の意見を聞きながら、声を届けられるところは一生懸命届けてまいりたいと思っておりますので、どうぞご理解いただければと思います。

◎**緑地公園課長補佐** 緑地公園課の伊藤といいます。先ほど、環境税ということで、今年から1人1,000円という形で国のほうで徴収しているものかと思っております。森林環境税という名前で国のほうで徴収して、そこから、都道府県と市町村に、それぞれ森林環境譲与税として交付されるものでございます。そちらのほうは用途が決まっておりますして、森林の持つ機能、環境的なものも含めて、そういった機能を保つために、森林の整備、あとは木育だとか、そういったものに使う、用途が決まっております。民有林ということも、今整理されていない民有林をどうにかしていこうといったような目的で頂いているお金ですので、市としましても、現在、モデル地区を設定して、そういった、まず調査で、今は森林の所有者の意向調査をしたり、今後どうしていくかといったところを進めている状況です。

全体的には、1,500ヘクタールぐらいたしかありますので、それを順次計画的に進めていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いたします。

◆**市民** 最後にしますけれども、全然答えが間違っていると思えますよ。5年間、苫小牧市はその譲与税をどうしていますか。基金に積んでいるんじゃないですか。もう一つ、公共物の木造化にも使えるはずなんですけど、そういうものも全然遅れているし、だから苫小牧市の取組を聞いたんです。

それと、さっきのコミュニティバス、全国を調べてみてください。ちゃんとこういう公共施設に通るバスでなくてもできる場所がありますよ。それを改善しようとしなから、地域から何回も出しても、バス停がないとできないとかと言っているから、再度私が言うわけです。

環境税の考え方は全然違っていますよ、基金に積んでいる場合じゃないんだよ、これは使うた

めに国が出しているお金なんです。苫小牧市は何ぼ基金に積んでいるんですか。

以上です。

◎**緑地公園課長補佐** 緑地公園課の伊藤です。基金について、令和元年から、徴収する前から譲与税というのが来ているんですが、具体的な金額、すみません、手元に持っていないで大変申し訳ないんですが、そちらの利用については先ほど言ったとおり、森林整備。木材利用に関しても、今お話があったとおり、使えるものと聞いております。今、市の目的であるこの森林整備、測量をやったり、さっき言った調査をやったりと進めながら、またほかの市町村とか、どういったことに利用しているかというところも確認しながら、今言った建物とかの木材利用とかで利用することも含めて、今検討しておりますので、どうかよろしく願いいたします。

◎**交通政策主幹** すみません、とこバスを担当している村上です。苫小牧市植苗・美沢地区土地利用計画の中で、広域バスの利用促進及びアンケート調査の実施という項目を挙げさせていただいておりますけれども、何度も何度も地元の皆様から声を上げられていただいているということは、我々も十分把握しておりますし、そのたびごとに運輸局さんのほうにもきっちりお話はさせていただいておりますけれども、この調査を通じて改めて、運輸局さんのほうにきっちりお話しさせていただきたいと思っております。よろしく願いします。

○**司会** よろしいでしょうか。それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。
今、マイクをお持ちいたします。

◆**市民** 中央町内会、・・と申します。よろしく願いします。

さっき保育園の話も出たんですけど、ちょっと僕も今は4歳の娘がいて、子育て世代として、この植苗に住んでいるところなんですけど、あと数年すると、うちの娘も植苗小学校に通うなどという歳なんですけど、ちょっと今、植苗小学校に子供は通わせるのがすごく不安だなというのを家族でお話しているところが正直あります。

というのも、ちょっとこの、僕、美々川でカヌーをやっているんですけど、5、6年生を対象に、2年に1回、植苗の小学生と一緒にカヌーをしているんですけど、今年、5、6年生が合わせて21人です。21人が5、6年生なんですけど、その後もちょっと子供たちはどれぐらいいるのかなと見ていくと、もう5、6年生が10人を超しているだけで、あとはもう5人とか6人とか3人とかという学年、すごく少なくて、今年の1年生に関しては、これ、僕が今言っているのは、今年の4月1日現在のデータなんですけど、1年生が5人で、その中、男の子が5人、女の子が0人。ちょっとこれは通わせるのは嫌だなと、正直、思っちゃいました。

片や、東側の地区は子供がものすごく多くなっていると思うんですけど、ただ、こっちはすごく少ない。

うちの子供も今は幼稚園、唯一バスが来てくれるのが、のぞみ幼稚園なんですけど、バスが来てくれているので、そこに通っているんですけど、片やそのエリアはものすごく子供が多くて、うちの子供がいる東側地域の例えばウトナイ小学校とかでしたら898人、拓勇、698人、拓進、662人とかかなり子供が多いんですよ。子供が沼ノ端のプールにちょっと通わせているときがあって、そのとき、親御さんに、「どこに住んでいるんですか。」という話の中で、「植苗です。」と言

ったら、そのお母さん、「あ、すごくいいですね。」と。「いや、もうウトナイ小学校は子供があふれていて、あそこに通わせたくないですよ。」というご家族の意見がありました。

そういうご家族は、多分西側は今すごく多いのかなと、僕は思ったんですね。苫小牧は、樽前小学校というのは苫小牧市で全員通えるんですよ、希望があると。特認校というんですかね、それに通えるようになっていると思うんですけど、それについてもやっぱり東側の地域の子供たち、実際に、じゃあ、その小学校に行くまでバスに1時間乗って通わないといけない。やっぱりそれがネックだという意見があります。

片や、通わせたいけど、やっぱりそのバスがすごく遠い。1年生から乗せたくないという親御さんもいる中、もう同じような感じで植苗小学校に、この東側の子供がすごくあふれている地域の子供たちをバスで通わせることができないのかというふうになんかちょっと思っていて、もしそれで子供たちが通ってくれることによって、この地域が活性化につながるのかなというのすごく思います。

そうしたら、小学校も増えていきますし、実際にこの植苗地域の人口を増やそうというのは、やっぱりなかなか家を購入したり、住むところ問題、いろいろ、もろもろやっぱり難しいところがあると思うんですけど、取りあえず学校の人数を増やしてほしいというのがちょっと僕の意見なんですけど、そういう苫小牧地域の子供たちを植苗の小学校に通わせることができないのかという意見です。

○司会 ありがとうございます。ただいま、植苗小学校の人数をもっと増やしたいというようなお話かと思いますが。

◎副市長 なかなか難しい問題かなというふう聞いておりました。確かに、樽前は特認校として市内全域から通えることができるということですけど、やはり西の端ということで、そこを選ぶ親御さんたちもやはりいろいろ独自の選択しながら選んでいるけれども、やっぱりそれでも生徒数はかなり少ない。新1年生も一人ですか、二人という状況で、そうした場合に植苗でもそういうことができないかどうかということになりますと、ちょっと教育委員会としての考え方というのはあるかと思いますが、植苗地区、今も道営住宅に家族、子供がいる家族は優先的に住んでもらえるというような基準を設けたり、やはり何とかこの地域にそういう若い、小さいお子さんも来ていただくような施策、取組というのはしているんですけども、なかなか、やはりこの市街化調整区域の中で、もっと広く住宅を設置できるようなところを造るというのは、これも至難の業ではないと思っておりますけれども、何かこの植苗小、中学校をこれからも永続的に残して、さらに子供たちがしっかりと通える環境を整える何か方策はないかというところは、今のご意見を教育委員会にも伝えたいと思っておりますし、そういった意味では、そういう検討の一つの材料として、私たちも何か策があるかどうかというのは考えていきたいなというふうには思っています。なかなか答えにならなくて申し訳ないんですが。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。それでは、いらっしゃらないようですので、意見交換のほうはこれで終了させていただきたいと思えます。

最後に、本日のまちかどミーティングの終了に当たり、木村副市長よりご挨拶させていただきます。

ます。

◎副市長 どうも皆さん、貴重なご意見をありがとうございました。

最初は誰も質問がないのかなというふうに思っていますけれども、そんなことはありませんので、私たちが皆さんのご意見をお聞きしながら、すぐにできるところは対応していきたいという気持ちでおります。

ただ、今も、この中でありましたけれども、市税だけで解決できない問題もたくさんあります。国、北海道、あとは民間が担っている部分については、私たちもどうしてもそこに手を突っ込めない部分もありますけれども、そういうご意見があったということは、しっかり市としても関係する機関にお伝えした上で、どういう対策になるのかというのは皆さんにもお伝えしていきたいと思っておりますし、市のなかなか予算がなくてできないという部分もあるんですけれども、それじゃあ、果たしてどうしたらそれに近い対策が打てるかということは、ここもちゃんと考えた上で、皆さんにお伝えしたい。それが役所の仕事だと思っておりますので、ぜひよろしく願いしたいと思っておりますし、職員は本当に一生懸命働いておりますので、皆さんもどうか温かい目で見ただけければ、うれしく思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日、もう8時近くなりましたけれども、皆さんのご意見を参考にさせていただき、きちっと対策につながるように対応してまいりたいと思っております。今後ともよろしく願いしますということをお伝えして、本日のまちかどミーティングはお開きにさせていただきます。本日、どうもありがとうございました。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを閉会いたします。

本日は誠にありがとうございました。